

国語科学習指導案

活動場所 本校舎 3 階 3 年 2 組教室
 生徒数 3 年 2 組 男子 21 名 計 38 名
 女子 17 名
 指導者 教諭 園田 さおり

1 単元名 「情報化社会に生きる」

2 教材名 「メディア・リテラシー」

3 単元について

昨今の情報機器の発達にはめざましいものがあり、老若男女を問わず、私たちの身の回りには膨大な量の情報があふれている。この傾向はさらに加速し、さらに多様化していくであろう。こうした情報化社会に生きる子どもたちへの情報教育の必要性が叫ばれているが、その際に情報の入れ物であるメディアに関わる見方や考え方を深めることも必要不可欠なことである。

私たちは、メディアは必ずしも現実をそのまま反映した情報をもたらしているのではないと知りながらも、結果的には思考や思想を形成する上でその情報から大きな影響を受けているのもまた事実である。それゆえに、メディアがどのような特性や意図によってどのように情報を構築しているのかを理解した上で、メディアに対して主体的に関わり、批判的に読み取ったり、創造的に発信したりすることが必要である。情報化社会を生きる力として、メディア・リテラシーが今、求められている。

本教材は、「ニュースは現実を伝えるものなのか」という問題を提起することから始まるが、「現実を再構成したもの」と結論付ける。そして、その「現実」を批判的に読み取り、再構成させる能力こそが、メディア・リテラシーであるとしている。また、文中で、情報を批判的に読み取ることの重要性について述べられているが、この文章の主張そのものが、与えられたテキストを、主張の信頼性や客観性、論理的な思考の確かさ、目的や表現様式に応じた表現法の妥当性など、様々な幅広い観点から評価しながら読むことの重要性を述べている。本教材の読みとりを通して、内容や表現を吟味・検討したり、自分の知識や経験と結びつけて建設的、批判的に読む力を身につけさせたい。

4 単元の学習目標

- (1) 情報化社会におけるメディアとの接し方について考えを深め、自分の意見をもつ。
- (2) 意見の中心をとらえ、論の展開と筆者の主張をとらえる。

5 単元の学習計画及び評価規準

時間	学習の流れ	評価規準
1	○ 通読し、初発の感想を書く。 ○ 意味段落の構成を確認する。 ○ 語句の確認をする。	◆ 本文の初発の感想を書くことができる。 ◆ 各段落の内容を理解し、筆者の主張をおおまかにとらえることができる。 ◆ 文脈に沿った語句の意味を確認することができる。
2 ・ 3	○ 本文（第1段落～第4段落）の読解をする。	◆ 各段落の要点をとらえることができる。 ◆ 各意味段落の中心段落をとらえ、要約することができる。 ◆ 「メディア・リテラシー」の意味を理解することができる。

4	○ 「メディアの伝える情報は現実を再構成した恣意的なもの」という筆者の主張を検証するため、条件にそって記事を書く。	◆ 筆者の主張する観点にしたがって、各班で協力して記事を完成することができる。
5 本時	○ 自分達で作成した記事を発表し合い、筆者の主張を理解する。 ○ 「批判的（クリティカル）に読み取る」ポイントについて考える。	◆ 発表を聞いて、各記事を比較し、感じたことを書くことができる。 ◆ 筆者の主張を理解することができる。 ◆ メディア・リテラシーの必要性について考えを深めることができる。 ◆ 「批判的に読み取る」という意味を確認し、その読み取りのポイントが理解できる。
6	○ 第5段落のまとめをする。 ○ 文章全体の展開、筆者の主張を整理し、要旨にまとめる。	◆ 文章全体の論の展開を整理し、筆者の主張をまとめることができる。
7	○ 新聞の比べ読みをする。 ○ 学習のまとめをする。	◆ 二つの新聞を読み比べ、共通点・相違点を見付けることができる。 ◆ メディアの伝え方によって異なる印象を受けることを感じ、メディア・リテラシーの重要性を確認することができる。

6 本時の実際(5/7)

(1) 教材名 「メディア・リテラシー」

(2) 学習目標

筆者の主張を検証する活動を通して、「批判的に読み取る」ことの必要性和、その読み取り方を理解し、メディアに対する自分の考えをもつことができる。

(3) 授業設計の視点

ア 言語活動の充実を図る学習活動の展開の工夫

本文で述べられている筆者の主張を検証することを目的として、情報を意図的に構成し、記事を書くという言語活動を行う。筆者の主張に基づき、情報を構成するいくつかの観点にそって情報を再構成させる。言語活動を通して、筆者の主張を実際に検証することで、筆者の主張がより鮮明に実感として理解できると考える。本時では自分達で作成した記事を発表し合い、筆者の主張を検証した上で、改めてメディア・リテラシーの必要性を確認する。

さらに、「メディア・リテラシー」を理解するためには「批判的に読み取る（クリティカルリーディング）」という言葉がキーワードであると考え、その意味を真に理解させたいと考えた。「批判的に読み取る」ということはどう考えることなのか、文章を意図的に再構成する言語活動を通して読み手に求められる思考能力についても具体的に考えさせたい。単なる読み取りだけでなく、筆者の主張を体験的に把握した上で、メディア・リテラシーについて考えることで、今後「メディアがもたらす利点と限界を冷静に把握する」心構え・身構えが少しずつ身に付いていくと考える。今後の社会生活での実際において活用していこうと感じさせる学習活動にしたい。

イ 他の教科・領域や、日常生活・社会生活と関連付けた学習内容の設定

日常的な場面を想起させる場面の設定について、身近な読み物であり、かつ重要な情報源である新聞を意識した学習を行うことで、「メディア・リテラシー」の考え方が実生活に深く関わる事柄であるという意識をもたせたい。そして、今後「メディア・リテラシー」を意識してメディアと関わっていくために、まずは身近な情報源に目を向けるきっかけにさせたい。

(4)授業の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点と評価（◆は評価項目）
導入	3	1 「幻の水」の話を読み、感想をもつ。	○ 率直な感想を自由に述べさせる。 ○ 終末で再度、異なる角度から読むことを伝える。 ◆ 興味をもって文章の意味を考えることができたか。
	4	2 形式段落⑬を読み、前時までの学習活動を確認する。	○ 「メディアが伝える情報は、現実を再構成した恣意的なものである」という筆者の主張を検証する意味で「記事を作成する活動」を行ったことを再確認する。
展開	2	3 学習課題を確認し、授業の流れを把握する。 自分達で作成した記事を読み、メディア・リテラシーを考えよう。	
	15	4 筆者の主張に基づいて作成した記事を発表し、その印象の違いを確認する。 ① 班ごとに発表する。 ② それぞれの記事を読んで受けた印象を書く。	○ 筆者の主張に基づいた「情報の構成」の観点をしっかり確認させる。 自分達で意図的に構成した文章を読む言語活動を通して、筆者の主張を体験的に理解させる。 ◆ 記事から受ける印象の微妙な違いを確認できたか。 ◆ 「メディアが送り出す情報は構成されたもの」とであるという筆者の主張を理解できたか。
開	15	5 「メディア・リテラシー」の必要性を再度確認し、「批判的に読み取る」ポイントを考える。 ① 第5段落を読む。 ② 「批判的に読み取る」ポイントについて考える。	○ 筆者の主張もまた、多くの見方の中の一つの見方であることを踏まえ、メディア・リテラシーの必要性を再確認する。 ○ 記事作成の活動をもとに、「批判的に読み取る」ポイントを考えさせる。 ○ 「批判的に読み取る（クリティカルリーディング）ポイント」を示す。 ○ 日常生活において様々な情報と向き合う時の読み手の心構えについて触れる。 実際の日常生活にメディア・リテラシーが深く関わっていることを考えさせ、今後の日常的な言語活動に活用させる。
	3	6 「幻の水」の話について再度考える。	◆ 「批判的に読み取る」ポイントが理解できたか。 ○ 「批判的に読み取るポイント」を意識して文章の内容について再度考えさせる。
	3	7 本時の学習のまとめをする。	○ 本時の学習と筆者の主張とのつながりを整理して、まとめる。
	3	8 本時の感想を書く。	◆ 本時の学習を通して感じたことを感想にまとめることができたか。 ◆ メディア・リテラシーに対する考えを深めることができたか。
終末	2	9 「自己評価カード」を記入し、次時の予告を聞く。	○ 次時は再度第5段落の内容を整理し、筆者の主張をまとめることを告げる。

